令和８年度八頭町教育委員会　9月定例会　会議録

○日　　時　　令和8年９月24日（木）　午後1時28分～午後2時55分
○場　　所　　八東庁舎　2階　第1会議室
○出席委員　　小林委員、大上委員、谷口委員、西川委員
○欠席委員　　なし

報告

9月議会が9月８日～9月18日まであった。その間、中学生の町バスの無料化についての新聞報道があった。まだ検討段階で、すると決まったわけではないが、一般質問でも町内の公共交通機関を絡めながらスクールバス通学について考えてもいいのではというご意見をいただいた。公共交通を町として維持するという観点も持ちながら、スクールバスは安全で確実な通学方法ではあるため、その確実性や柔軟性といったところも考えながら、あり方を考えていかないといけないというような答弁をさせていただいた。ただ、これは今に始まった話ではなくずっと言われているもので、中学校の統合時の申し合わせの中で、色々検討した結果スクールバスで統一した経過がある。しかしながら統合当時と状況は変わってきていて、生徒数も減少している。今後も減っていく見込がある中で、申し合わせだからといって検討に入れない時代ではなくなってきている。また具体的な検討が必要ということになれば、教育委員の皆様方にもお諮りをしてよりよい方向性を出していきたい。

議事

議案第1号　専決処理の承認を求めることについて
（八東小学校防火管理者に係る任命等）

・教頭先生が資格を取得したことに伴い、前教頭（現校長）先生から教頭先生に防火管理者を変更するもの。
・全委員一致で承認した。

その他

・令和7年度教育委員会執行事務の点検と評価の確認について
（委員）感想になってしまうが、はたちのつどいについて、参加したいと思えるような企画内容の検討を要すると書いてある。ただ、来ない子は小中学校時代に良い思い出がなかったり友達との関係がよくないといった場合が多いのではないかと思う。企画の問題というわけではなく。

（事務局）大体対象者数150人程度で、参加者は100～120人程度。住所を変えずに進学で出ている子は、実家に送っている。子どもに連絡を取ってもらうのが遅れたりすることもあって、参加連絡がまだ間に合うかという問い合わせ等もいただくが柔軟に対応させてもらっている。当日出る予定にしていたが出られなくなった方は後で参加賞だけを渡すこともしている。

（委員）進学等で距離がある子だと、雪の時期だから難しいというのもある。2日には帰らないと間に合わないという子がいたり、仕事だから参加できないという子もいる。学校が苦手だったような雰囲気じゃない子がいなかったりするので、来ている子に○○さんは？と聞くと、学校で来れないとか、仕事が休めなかったらしいと教えてくれる。

（事務局）ライブ中継もあるので、それを見ている人もいると思う。

（委員）久しぶりに顔を合わせる機会だと思う。やずポイントのアプリはアプリ上の交流ができるような機能はないのか。共通の掲示板のようなスマホでやり取りできるツールを配信して、リアルタイムで地元の情報の共有ができて、八頭と繋がれるようなプラットフォームがあればいいと思う。

（事務局）友達同士ではLINEとかでの繋がりあると思う。ただそこで行政が、グループLINEのようなものを作って、町の情報を発信したりするようなプラットフォームとするのは、視点としては有りだと思う。この度、八頭町の公式LINEを開発して、運営していく段階。ただ、それは一方的に行政情報を発信するだけのツール。若い人に発信したい情報もあり、繋がってほしいという思いもある。八頭町に帰ってくる一つの種になればと思う。新しいアプリの開発となるとまたお金が跳ね上がってしまうので、既存のアプリを何か上手く活用出来たらいい。

（委員）はたちのつどいでインタビューすると県外に進学している子から、八頭に帰って、というようなことを聞くことが結構ある。実際はわからないが、気持ち的には将来は帰ってということを考えているんだという印象がある。

（事務局）就職先の検討に入った時に、こっちに希望する就職先がないという問題に突き当たってしまう子は一定数あるんだろうと思う。そこのところは民間の力も借りないとというところではあるが、色々なところで指摘はされているようで県もなんとかしたいという思いは知事の発言でもあったように思う。

（委員）何か技術を身に着けて持って帰って生かせられたらという口ぶりなので、今は子どもの方がよく考えているなと思わされる。コロナでリモートという働き方を知って、都会に出なくても仕事ができると明らかになった。時々は東京に行かないといけないけれど基盤は田舎でもできる。そこの選択肢が変わってきたんだと思う。

（事務局）いつかは帰ってきてくれたらと思う。

（委員）点検評価について、特に核になる部分や重要なポイントについては、厳しく評価するのがいいと思う。結果悪い評価になった場合お叱りや指摘を受けることもあると思うが、こちらもこれは課題と思っているのでと知恵や意見を出してもらった方が前に進めるのではないかと思う。そういう視点で改めて確認しようと思う。

・教育委員会学校訪問[後期]
郡家西小学校　10 月 16 日(金)9:30～12:50(給食あり)
郡家東小学校　11 月 9 日(月)10:30～12:50(給食あり)

・冷風機の設置について
交付金の余りを活用して、小中学校の体育館用に計8台導入予定。

・10月14日の教育講演会について
デジタル機器・AI が子どもの脳発達に与える影響をテーマとした教育講演会を開催予定。講演会は16時頃から教員向け(第1部)、18時から保護者・一般向け(第2部)の二部構成で、教育委員にも参加を案内する予定。

・スクールバスの今後のあり方についての検討
(事務局)スクールバス現在9台。生徒は減ってきている。PTA からは、気候や熊、不審者情報などあるためできればスクールバスやってもらいたいという要望。公共交通を上手く活用して、安全で確実な通学方法の確保ができれば、バランスをとってやっていきたいと思っている。
(委員)土日は部活で使うのか。乗車人数は。
(事務局)土曜日は使っている。日曜日は休み。乗車人数はかなり少ない。3年生がもういないのもあり、路線によっては非常に少ない。ただ、人数の減によるバスの数や大きさの議論は出てくると思うが、生徒数も波があるので増えた時のことを考えるとスクールバスの増減の話はなかなかできない。今後もう人数が増えないという見通しが立てばバスでなく普通車、10人乗りのスクールバスという選択肢はあると思う。
(委員)楽な財政状況でない中で、児童生徒数も減ってきている。できる範囲でのスクールバスの維持は努力していかないといけないと思う。ただ、本当は子どもの都合にスクールバスが合わせるのではなく、子どもが公共交通に合わせていかないといけない。大人になるとはそういうことだと思う。
(委員)平日の授業がある日については、学校の時間に合わせた公共交通は難しいかもしれないが、部活の時だけのスクールバスがあるのであればそこは、公共交通を検討してもいいのでは。一般の方がいる公共交通機関でのマナーや、公共交通の時間から逆算して行動することだったり、料金を払わないにしても勉強になる。
(委員)中学生、高校生でもバスの乗り方を知らない子や JR の切符の買い方を知らない子がいる。そういうチャンスを摘んでしまっている面もあるのでは。なので、いざとなったら公共交通を利用するということで、財政の面で無理をしなくて良いのではと思う。
(委員)私は、何なら徒歩や自転車もスクールバス乗せてほしいと思う。暑さや雪、害獣のことを思うのであれば、通学が短時間でも危ないものは危ない。それなら全員乗せてほしいと思う。
(事務局)2㎞未満は徒歩、2㎞～4㎞未満は自転車、4㎞以上はスクールバスという区

切りはある。ちょうど集落間の境目のところは同じところから通学しているのに自転車とスクールバスという差が出ているところがあって、そこはスクールバスのキャパシティーにもよるが改善していきたいと考えている。ただ際限なく乗せるとキリがないので、今見えている不整合部分だけ改善して、本格的な議論は今後に委ねる。

（委員）運転手の確保は無理なくできているのか。

（事務局）そこは無理をしてもらっているところ。鳥取自動車に委託しているが、やずバスの運転手もしている中で運転手の確保が厳しいのでどうにかならないかという話は出ている。ただこれは全国的な課題で、今後処遇改善などで盛り返すかもしれないが、というところ。

（委員）若桜学園は、小学生はスクールバス、中学生は自転車や公共交通で通学する。小学生は守られて、中学生は自立に向けてという動き。中学生になると一気に逞しくなる感じがする。統合の時八東から郡家に行くのになんで若桜鉄道を使わないんだろうと思っていた。

（事務局）沿線に住む生徒はいいが、駅から遠い家の生徒についてどのように対応するかというところや、その遠さの区切りのこともある。公共交通の乗り方は知っていて損がない。市内だと通学に公共交通を利用しているところもあるのでできないことはないと思うが、本数がないのがネック。時間が合えばあるかなと思う。ただ、急遽の早帰りなどの対応のこともあって、そのあたりを考えるとスクールバスかなと。

（委員）スクールバスの運営委員会でも色々な意見が出たと思うが、そこで教育委員の思いも出せたらいいと思っている。至れり尽くせりがいいけれど、公共交通機関を利用した方が生きる力を付けられる。そういう意見があってもいいと思う。

（委員）高校入試は公共交通を利用するので、そういう時に乗り慣れている子は緊張しない。学校側も、スクールバスは乗せてしまったらそれでいいからそっちの方が安心かもしれない。公共交通だと指導が増える部分はあるかもしれないけれど、子ども達の逞しさを考えると自立の道を切ってもらった方がよいのではと思う。

（事務局）スクールバスだと友達だけだが、公共交通だと一般の人と一緒なので、そういうところで乗り方やマナーを身に着けていかないといけない。それが社会性を身に着けるということだと思う。いろいろご意見いただいたので、これから具体を検討する際には、しっかりと加味して検討を進めたい。